

令和6年度第2回石巻市総合計画審議会 会議録

■日 時 令和6年11月26日（火） 午後1時～午後2時45分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数19名に対して13名が出席しており会議は成立

2 あいさつ

(1) 石巻市長あいさつ

令和六年度第二回石巻市総合計画審議会の開催に当たり、一言、御挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、日ごろから本市の行政全般にわたり御理解と御協力を賜り、心から御礼申し上げます。

本年八月に開催しました第一回総合計画審議会へは、公務の都合により欠席させていただきましたが、委員の皆様からいただいた貴重な御意見や御提言につきましては、事務局より報告を受けております。

さて、本日の第二回総合計画審議会では、事務局において検討を重ねてまいりました施策の体系及び各施策における指標案について御説明させていただきます。

施策の体系及び指標は、計画の根幹をなすものであり、計画の進捗状況を適切に評価・検証するためにも重要となるものです。より実効性の高い総合計画後期基本計画の策定に向けて、全力で取り組んでまいりますので、委員の皆様には、それぞれ御専門の見地から、また、市民の代表としてのお立場から、忌憚のない御意見を賜りたいと存じます。

結びとなりますが、委員の皆様におかれましては、引き続き、本市の発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

(2) 会長あいさつ

本日は施策の体系及び指標について議論をいたします。市長がおっしゃったように、重要である一方、非常に難しい面もあります。現在パラレルに、前期計画の評価について会議が開催されており、兼ねられている方々もいらっしゃるかと思いますが、どのように評価したらいいのか非常に難しいところでもあります。この審議会では指標が決まると、指標に基づきいづれ評価することになりますので、そのとき苦労しないよう、この場でしっかりと議論をした上で決めていければと考えております。

本日も金曜日、よろしくお願いいたします。以上でございます。

3 議題

(1) 後期基本計画における体系及び指標（案）について（説明：政策企画課）

【第1章】

（委員）

指標が良い悪いという話をしていくと、延々に終わらないのではないかと思います。聞きたいことをこの場で聞いてもよいのか、それとも後で意見シートにまとめて書いて出したほうがよいのか、いかがでしょうか。

（事務局）

各委員の皆様から意見をいただくことを大事にしたいと考えておりますが、会議自体があまり長時間に及ばないように配慮したいとも思っております。会議の中で質問できなかった場合や、資料を見返した際に、例えばさらに良い指標が思い浮かぶなどした際には、ぜひ意見シートで意見をいただければと思います。この会議の中でいただく意見については、時間の許す限り対応させていただきます。

（委員）

指標とその取組のつながりやK P I とK G I のつながりが、資料を見た限りでは分からない点もあり、1つずつ聞いてよいものか質問させていただきました。

例えば、3節の「防災訓練の参加率」と「防災情報サービスの登録者数」が達成されると、「災害に備えて備蓄している家庭の割合」が増加するのかが疑問です。また、4節の主な取組で、「女性人材育成セミナーの実施」や「性教育講話の実施」により、「自治会等の役員に占める女性の割合」の増加、そして「女性の就業率」向上につながるのかが疑問です。指標と指標の間に何か要因があるのでしょうか。

（事務局）

庁内でも様々な議論を重ねた結果、現時点で進めている事業の位置付けや関連性を踏まえ、主な取組を記載しております。K P I を新たに設定する中で、主な取組は改めて見直す必要はあると考えております。

3節の内容についてご意見をいただきましたが、私どもの考え方としては、「自助・共助・公助の取組による災害に強い安全安心なまち」を目指す姿としており、特に「自助」の部分が重要であり、最終的には「自分のことは自分で守る」という意識づけが必要であることから、K G I を設定しております。

K G I とK P I の関係性ですが、K P I である「防災訓練の参加率」については、先日も総合防災訓練を実施しましたが、地域や学校と連携し実施しております。そのような取組によって、地域防災力をさらに向上したいと考えております。もう1つのK P I 「災害情報サービスの登録者数」については、最終的には自身で必要なものを用意して避難するためには、いち早く情報を収集することが必要となるため、市としても様々な手段を用いて情報を発信したいと考え、一人でも多くの市民に防災情報サービスに登録していただきたいということから、指標を設定しております。

(委員)

3 節について、防災に携わっている立場から意見しますと、「防災訓練の参加率」の目標よりも、自主防災組織の稼働率を上げていく方策を盛り込んでいただきたい。組織率は高いものの、活動実態がない組織が実在しており、総合防災訓練においても、防災訓練を実施した自主防災組織がどれほどあったのか、地域により非常に温度差があるため、実態を把握していただきたい。

(事務局)

令和 5 年度の「防災訓練の参加率」は 1 8 . 1 4 % 程度です。稼働実態がない自主防災組織があるというお話ですので、しっかり取り組んでいけるよう、担当課と共有を図りたいと思います。

(委員)

安心して安全に暮らし続けられるまち、地域社会になっているのでしょうか。弱者や障害を持っている方々は、町内会総会などにはなかなか出てこれないと思いますが、誰一人残さず総会に出ていただき、町内会で支え合えることのできる仕組みになれば、地域共生社会の実現は可能になると思います。町内会の取組により、一つ一つの問題が解決していく、そういった視点を数値化するのはいかがでしょうか。

(事務局)

この後説明する 3 章の福祉分野にもつながりますが、共生社会を実現していく上で、誰一人取り残すことなくお互いに助け合っていくためにも、町内会への加入や交流活動への参加を促していく必要があると思い、K P I を設定しております。K G I の客観的指標については、庁内でも議論はしましたが、非常に困難でした。

(委員)

町内会で取組を行うことによって問題解決をしていけるようにし、その解決した件数を指標とするのはいかがでしょうか。

(会長)

つまり、インクルーシブな社会を実現に向け、町内会の取組や K P I が記載されるべきというご意見です。いかがでしょうか。

(事務局)

福祉施策を所管する部署と連携を図り、いただいた意見についてどのように対応が可能か、議論したいと思います。

【第 2 章】

(委員)

1 節について、主な取組に記載のある「環境市民」という言葉は、市独自の言葉なのか、一般化されている言葉なのか確認です。

(事務局)

市の独自の取組として進めているもので、「環境市民講座」を開催し、積極的に自然と触れ合い、学ぶことができる場を創出しております。日常生活において積極的に環境等に配慮した行動を実践できる方を育成するという取組であり、講座に参加いただいた方を「環境市民」として登録しております。

(委員)

市独自ということであれば、環境市民だけでは少し分かりづらく、何を目指した市民なのか分かる言葉だとさらに良いと思います。

(委員)

1 節について、一人一人の意識の問題が指標に反映されており、人によってはエコバックを持っているだけで環境保全していると思う人も、マイクロプラスチックのことまで考えている人もいるでしょうし、やはり意識改革が必要だと思います。2 節のごみの関係も、担当課には啓発活動をしっかり行っていただきたい。

(会長)

取組の中に啓発活動を記載していただきたいということでもよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(委員)

2 節について、市民一人一人の意識ということですが、ごみの減量化を進める上では、事業者の取組も必要と思っております。容器包装リサイクル法という法律もありますが、できる限りトレーなどを減らす工夫をするよう、事業者への啓蒙活動も主な取組に入れてはいかがか。

(事務局)

市内の事業所の皆さまとも連携し、そのような取組も加えたいと思います。

(委員)

3 節について、考え方を教えていただきたいと思います。前期計画においては、この節はK P I の数が多かったと思いますが、後期計画ではK P I の数を決めているのでしょうか。

また、前期計画との連動性ということで、前期計画におけるこの節のK P I については、総合計画推進会議において指標の変更の報告があったと思いますが、後期計画で示されたK P I は変わっており、さらに、主な取組に記載されている内容もつながらないように思えます。K P I の数が固定されていないのであれば、前期計画との連動を意識して再考した方が良いのではないのでしょうか。

(事務局)

この節については、前期計画では建設部の事業担当ごとに1 つずつK P I を設定し

ておりましたが、後期計画では節において掲げる目標に向け、住環境の向上と都市機能の向上の2点をKPIとしております。このKPIを達成するためにどのような事業を展開するのか、整理していきたいと思います。

【第3章】

(委員)

4節について、KGIに「健康寿命」が設定されておりますが、私どもの町内会でも7、8年前から健康寿命日本一を目指しております。健康寿命を延ばすことができれば、医療費も下がり、非常に良いことばかりです。ぜひ真剣にやっていただきたいと思います。

(委員)

1節について、KGIの客観的指標の設定理由では、「人口維持を目指す」と記載されておりますが、消滅可能性都市とされた中、「維持」でよいのでしょうか。「拡大」や「拡充」といった文言の方が、施策に関わる方々のモチベーションの維持にもつながるのではないのでしょうか。

(事務局)

出生数は減少している現状のため、まずはそこを止めるという目標とさせていただきました。ただ、消滅可能性都市と位置付けられたことも踏まえると、「維持」ではなく上昇させていく目標とすべきだと思います。担当部署とも共有し検討いたします。

(委員)

2節について、KGIの主観的指標において、「40歳以上」と設定しておりますが、なぜ40歳以上なのでしょう。

また、3節について、KPIにおいて「障害を理由とする差別に関する相談を受けた件数」についてゼロ件を目指すとしておりますが、些細なことでも相談をされるということは非常に重要であると考えますので、吟味が必要ではないのでしょうか。

最後に、5節について、3つ目のKPIでは、「地域で助け合いの意識が全体的にある、部分的にあると回答した市民の割合」を設定しておりますが、「全体的にある、部分的にある」という設問は吟味が必要ではないのでしょうか。

(事務局)

2節について、「40歳以上」とした理由としては、40歳ころから両親の介護が始まる年齢となると考え、その年齢以上の方々が高齢福祉施策についてどのようにお感じになるのかをお聞きしたいということから、「40歳以上」といたしました。

3節について、障害者の方からの相談がゼロ件であれば、偏見などがないと判断できると考えましたが、少し分かりにくいかもしれませんので、担当課と共有いたします。

5 節について、設問の仕方の工夫が必要になると思いますので、担当課と共有いたします。

福祉施策は主観的指標を多く設定しておりますので、正しくアンケート結果を得るためにも、全体的に設問方法を確認いたします。

(委員)

3 節について、「障害を理由とする差別に関する相談を受けた件数」の目標をゼロ件とすることは、もちろん理想ではありますが、ゼロ件にすることが目標になってしまい、本来的に持っているべき部分がないがしろになってしまう恐れがあります。

また、5 節について、1 つ目と 2 つ目の K P I がただの裏返しになっているだけで、意味があるのかと疑問に思います。

(委員)

5 節について、主な取組に、「避難行動要支援者の支援体制を推進するため、民生委員や町内会と情報共有等を図る」と記載されておりますが、現在避難行動要支援者の個別避難計画を作成する必要がある、情報共有だけでは少し言葉が足りないのではないのでしょうか。

(事務局)

担当課と情報共有いたします。

4 その他

(委員)

市の職員はスペシャリストではなくどちらかといえばジェネラリストであるため、深みのある話ができない。表層的な議論しかできず、本音の話ができないと、本当のまちづくりにはならないと思います。我々の方で、半日くらいかけて、テーマを分けて議論する必要があるのではないのでしょうか。市幹部でご検討いただきたい。

(事務局)

審議会として必要かどうか、会長及び副会長とも十分相談したいと思います。

(委員)

委員からの意見により体系や指標が変わる場合、令和 7 年 3 月に開催する第 4 回審議会までの間に報告いただく場は設けないのでしょうか。

(事務局)

委員の皆さまからいただいた意見については、庁内で整理し、その結果は電子メール等で事前に共有させていただきたいと考えております。

5 閉会

石巻市総合計画審議会委員名簿

No.	委員人	所属	備考
1	姥浦 道生	東北大学災害科学国際研究所	出席
2	横江 信一	石巻専修大学	出席
3	庄司 昌彦	武蔵学園データサイエンス研究所 / 武蔵大学	欠席
4	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会	出席
5	井上 達彦	石巻市防災士協議会	出席
6	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	出席
7	宇角 安弘	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	欠席
8	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	出席
9	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	出席
10	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
11	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
12	近藤 浩之	いしのまき農業協同組合	欠席
13	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
14	橋本 丈史	株式会社 街づくりまんぼう	出席
15	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	欠席
16	伊藤 桂子	石巻市社会教育委員会	欠席
17	大森 憲市	石巻市PTA協議会	欠席
18	花岡 徹	石巻金融団	出席
19	日野 淳	株式会社 口笛書店	出席

令和6年11月26日現在（敬称略）